

Ⅰ 保育の計画性		意見・改善点
評価内容	評価	
1. 園の保育理念、保育方針の理解		
○ 園の保育理念や保育方針を理解している	A	
○ 園の保育方針に共感している	A	
○ 園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる	B	
2. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解		
○ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解していると思う	B	
○ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領について、 幼児の姿や環境の構成、保育教諭のかかわりなど具体的な事例を想起できる	B	
3. 教育・保育課程の編成		
○ 園の教育・保育の全体的な計画を理解していると思う	A	
○ 園の教育・保育の全体的な計画をもとに、教育・保育計画を立てている	A	
4. 指導計画の作成		
○ 園の方針を指導計画や保育に生かそうとしている	A	
○ 指導計画は教育・保育要領、全体的な計画、幼児の実態などをもとに 考えて作成している	A	
○ 指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活の様子、予想される これからの生活などを考慮して作成している	A	
○ 指導計画は総合的な活動ができるように考慮して作成している	B	
○ 幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて	A	

○自園の保育理念は理解しているものの、説明を求められるとできないという意見が出た。
職員への説明をしっかりと行い、理念や方針の理解に努め、わかりやすく伝えていくよう心がける。また、掲示しておくことでいつでも確認できるようにする。

○開園して6年目を迎え、生活の流れを全体で見直しする機会を設けたい。

精選している	ハ
Ⅰ 保育の計画性	
評価内容	評価
5. 環境の構成	
○ 安全で清潔感のある環境構成をしている	A
○ 指導計画に基づいて、幼児が主体的に関わりたくなるような環境構成をしている	B
○ 幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている	B
○ 幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をしている	B
○ 遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量を配慮して用意している	B
○ 幼児の動線、目線に配慮した環境構成をしている	A
○ 幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成している	B
○ 幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示を考えている	B
○ 季節の変化に応じた環境構成をしている	B
○ 異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている	B
6. 保育と計画の評価・反省	
○ 自分の保育と計画の評価・反省は、行うようにしている	A
○ 評価・反省は観点を定めて行っている	B
○ 自分の保育と計画の評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている	A
○ 自分の保育を他の保育教諭たちに目てもらい、それをもとに検討している	R

○ 日付の休日を他の休日振替したくない、という希望を反映している	○
----------------------------------	---

Ⅱ 保育の在り方、幼児への対応	
評価内容	自己評価
1. 健康と安全への配慮	
○ 朝の登園時には特に視診を大切にし、こどもの体調が悪くないかを確かめている	A
○ 体調が悪そうなどときには静かに寝かせたり検温したり適切な処置を行い家庭へ連絡している	A
○ 万一事故やケガが発生した場合、園長に報告し、保護者に連絡を取り、医師に診てもらうなど適切な処置を行っている	A
○ 園内に危険な個所がないか、危険な遊びはないか、活動が年齢や能力に対して危険ではないかなど、常に観察している	A
○ 危険の予測される場合は、幼児たちと一緒に見たり考えたりして安全な使い方や遊び方について気づくことができるようにしている	A
○ トイレの使い方について配慮し、幼児にも正しい使い方を具体的に示している	A
2. 幼児のみとりと理解	
○ 幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている	A
○ 幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても推察するようにしている	B
○ 見えないところで活動している幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる	B
○ 幼児のこれまでの姿、今の姿、これからの活動をある程度予想することができる	B
○ 個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる	B
○ 幼児同士のかかわりの姿をとらえることができる	B
○ 幼児たちが今興味や関心を持っていることがわかる	A
○ 幼児の理解のために保護者と話し合うことがある	B

意見・改善点

Ⅱ 保育の在り方、幼児への対応	
評価内容	自己評価
3. 指導とかかわり	
○ 幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線にたってものを見つめたりしている	B
○ 一人ひとりの幼児の思いを把握して寄り添いながらかかわっている	A
○ 「先生のようにやってみたい」と幼児が思うような、モデルとしての姿を心がけている	B
○ 保育教諭らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている	B
○ 幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしないようにしている	A
○ 善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培う上でモデルとなっている	A
○ 幼児が遊びを深めていくためのヒントやアイディアを提供している	B
○ 幼児の年齢に応じたわかりやすく聞き取りやすい語りかけ方をしている	A
○ 幼児が行き詰っているときに、適切な援助をしている	B
○ 禁止、命令、行動を急がせる、自信を失わせる言葉や態度はできるだけ控えている	A
○ 幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮してかかわっている	B
○ クラスに関係なく、その場にいた保育教諭が適切な言葉かけや対応をしている	A
○ 幼児のことについて常に保育者同士で話し合い、クラス、年齢をこえて情報を共有している	B
○ 職員全員がすべての幼児についてある程度理解しているよう様々な工夫をしている	B
○ 指導上配慮を必要とする幼児については、職員全体で特によく話し合い共通理解をもって対応するようにしている	B

Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適正	
評価内容	自己評価
1. 専門家としての能力・良識・義務	
○ 保育教諭として専門知識や技能を身につけている	B
○ より高度な専門知識や技能を身につけようと研修をしている	B
○ 保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくるよう努めている	B
○ 仕事の手順をよく考え、能率よく行っている	B
○ 保育時間外でも保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がけている	A
○ こども園には自分自身のプライベートな事柄を持ち込まないようにしている	A
○ 幼児や保護者との対応には公平さを欠かさないようにする	A
○ 園の消耗品や教材は節約して使い、後で使う人が使いやすいようにする	A
○ 服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけている	A
○ 自らの健康にも配慮し、爪が伸びていないかどうか等、保育をする上での安全性にも気を付けている	A
○ 職務上、知り得たプライバシーに関する秘密を守っている	A
○ 園の重要書類は持ち出していない	A
○ 締め切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守っている	B
○ 職員や園の批判を軽はずみにしていない	A
○ 勤務内容や担当による仕事は確実にやっている	A

意見・改善点

○保育教諭としての各項目では、自信のなさがうかがえた。しかし、保育にかける思いは強いいため、今後に繋がるように自信と信頼関係の構築を図っていく。

Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適正		
評価内容		自己評価
2. 組織の一員としての在り方		
○ 他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べることができる	B	○今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、行事の規模縮小や中止が多かった。その中でも、感染予防を徹底しながら開催できた運動会は職員一同の達成感が伝わった。行事後の振り返りでは、各職員が改善点や次年度に繋げる点を出し合い振り返りに努めている。
○ 自分の意見と異なる結果となっても議論の上、決定したことには協力し、実行している	A	
○ 園児のこと、クラスの出来事などで必要な事は園長や副園長に報告、連絡、相談をしている	A	
○ 職員全員と親しく付き合い、偏った人間関係をつくっていない	A	
○ 園に関することについてみだりに、または不正確なままに他へ話したりしていない	A	
3. まわりを感じ取れる感性・アンテナ		
○ 幼児や教育・保育に関する情報をたえずとらえようとしている	B	
○ 園や幼児のことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	B	
○ 自然に対する感性を持ち、命の尊さを感じている	B	
○ 地域のことに関心がある	B	

IV 保護者への対応	
評価内容	自己評価
1. 情報の発信と受信	
○ クラスやこどもの様子、自分の考え方、保育のポイントなどをクラスだよりなどで知らせている	A
○ 個々のこどもの様子は直接話をしたり、電話、連絡帳などを使って伝えあっている	A
○ 保育参観や懇談会を開いてこどもについて、保育について、家庭での様子について共通理解を得るように努めている	B
○ 自分の考えをきちんと話し、保護者の話を心を開いてよく聞く	B
○ 必要に応じて写真、イラスト、ボードなど様々な方法で分かりやすく伝える工夫をしている	B
2. 協力と支援	
○ 保護者からの様々な訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり、無視しないで園長や主任に報告や相談をしている	A
○ 保護者への支援が可能な部分については園長指導の下、職員の合意の上行っている	A
○ 保護者の協力が必要な場合は、園長と協議し、具体的な協力のあり方について、保護者と話し合っている	A
3. 対応上のマナー・良識	
○ 正しい日本語、ていねいな言葉と敬語を用いて語りかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている	A
○ 親しくなったからといっても、友達同士の様な話し方をしていない	A
○ 電話は相手が見えないために誤解が生じやすい。そのため手短かに簡潔に要領よく対応することを心がけている	A
○ 園のすべての保護者に対し、親しみを込めたあいさつや会話を心がけている	A
○ 保護者からご意見をいただいた場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告、連絡、相談している	A

意見・改善点

○情報の発信は、ホームページや登降園システムコドモンを活用して保護者へ情報発信に取り組めた。

V 地域の自然や社会とのかかわり		
VI 研修と研究		
評価内容		自己評価
V 1. 地域の自然・人々とのかかわり		
○ 地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている		B
○ 地域の自然や主な施設の場所、交通機関、主な行事等についてある程度理解している		B
○ 地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している、またマップを作成するなど利用しやすくしている		B
○ 10の姿などにかかわり、小学校にも関心を持ち教育内容について理解しようと努めている		A
○ 地域開放や子育て支援について具体的な形や内容を理解している		B
VI 1. 研修・研究への意欲・態度		
○ 研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している		B
○ 他園の見学をしたり、公開保育をみてみたいと思う		A
2. 今日的課題に関する研修・研究		
○ こどもをとりまく様々な状況が変化していることについて考え、何が問題か、背景・原因・実態はどうあるかについて理解したり学習したりしている		B
○ アレルギー、自立の遅れなど最近多くみられる問題について理解している		B
○ チーム保育について、その意義やあり方について研修・研究している		B